

平成 26 年度 事業計画書

(平成 26 年 3 月 1 日から平成 27 年 2 月 28 日まで)

<平成 26 年度の活動指針>

- ①公益社団法人日本油化学会として新定款の下で本会活動を行う。また、必要に応じて体制整備を実施する。特にホームページの改善を進める。また、本会の将来構想策定に向けた取り組みに着手する。
- ②学術面では、第 53 回年会（宮下和夫実行委員長）を 9 月 9 日（火）～11 日（木）にロイトン札幌（北海道・札幌市）で開催する。懇親会は、9 月 10 日（水）に第 1 回アジアオレオサイエンス会議と合同で開催する。第 1 回アジアオレオサイエンス会議（ACOS2014）を 9 月 8 日（月）～10 日（水）にロイトン札幌（北海道・札幌市）で開催する。エキスカージョンは、9 月 10 日（水）、また同日、懇親会を第 53 回年会と合同開催する。その他、新時代のニーズに即した企画で、専門部会、支部によるセミナー・講演会等を実施する。
- ③教育活動では、フレッシュマンセミナー、油脂技術講習会、専門部会活動などを推進すると共に、重点課題として学術討論会等での“油脂関連製品取り扱い担当者・消費者のための教育”を企画し、参加者・会員増強に努める。
- ④学術誌：学術論文誌「JOS」は国際社会に貢献するより知名度の高い国際誌を目指す。会員誌「オレオサイエンス」は会員に役立つ情報誌づくりに努力すると共に HP（ホームページ）を活用した敏速な情報発信に努める。
- ⑤社会貢献の一環として一般財団法人油脂工業会館との共催で実施している市民講座（地区講演会）は、本年度も 3 支部が中心となり全国の地方都市で実施する。

1. 会務

1.1 総会

第 60 回定時総会を平成 26 年 4 月 25 日（金）油脂工業会館において、代議員を社員として開催する。平成 25 年度事業報告（報告事項）、平成 25 年度決算案などについて審議し、平成 26 年度の役員を選任を行う。定時総会終了後、総会報告会を開催し、定時総会および新執行体制について報告する。さらに日本油化学会フェローの推薦を行うとともに、平成 25 年度日本油化学会の学会賞、進歩賞および女性科学者奨励賞の各賞の選考結果報告と表彰等を行う。その後、講演会ならびに懇親会を開催する。

1.2 理事会

平成 26 年度の理事会の開催予定は 5 回。平成 25 年度決算案および平成 27 年度の事業計画の立案と収支予算案の策定、平成 26 年度諸事業計画の企画・実行、諸規則類の整備・改定等、重要案件について審議し決定する。

1.3 運営委員会

運営委員会の開催予定 6 回。運営会議は必要に応じて開催する。運営委員会および運営会議は理事会に上程する重要案件について詳細な審議を行うが、さらに日本油化学会の活動方針・将来構想について議論を進める。

1.4 業務委員会およびその他委員会

本会の業務を担当する総務、財務、国際交流、オレオサイエンス編集、JOS 編集の各委員会は、それぞれ公益社団法人としての内部体制と諸規則類の整備、収支バランスを踏まえた学会活動の財務的支援、海外の学術団体および工業会などとの共同活動推進、アジア中東地域での No. 1 学術誌を目指した国際情報発信力の強化を継続して進める。また、企画・部会統括委員会は本部・支部・各専門部会が企画する講演会やセミナーが円滑に実施できるよう、スケジュール調整および相互情報交換を進める。

2 事業計画

2.1 研究成果の公開，人材教育，研究の奨励及び業績の表彰を行う事業（公1）

2.1.1 研究成果の公開

(1) 日本油化学会年会等の開催

平成26年度第53回年会は，宮下和夫実行委員長（北海道大学大学院水産科学研究院）のもと，ロイトン札幌（北海道札幌市）において，9月9日（火）～11日（木）に開催する。受賞講演，一般発表，シンポジウム等を行う。また，第1回アジアオレオサイエンス会議を9月8日（月）～10日（水）に同会場にて同時開催する。研究成果を相互に発表することを通して，オレオサイエンス分野発展の重要性についての共通認識を，アジア諸国の研究者・技術者と共有する。一方，アメリカ油化学会とのジョイントミーティング（第7回）を5月4日（日）～7日（水）米国サンアントニオにおいて開催し，研究成果を共有する。

(2) 論文誌・会員誌の発行

JOS編集委員会は，論文誌「Journal of Oleo Science」を12号発行する。オープンアクセスの維持，早期公開の継続，関連研究者への働きかけ等を通して，会員ならびに国内外研究者からの「JOS」への積極的な投稿を募る。また，J-Stageバージョン3（Scholar One Manuscript）のオンライン投稿審査システムを基盤に，国際的な投稿審査体制の一層の充実を目指す。アジア～中東地区でのNo.1学術誌の地位を確立することを目標に，Impact Factorの向上に努める。そのための方策として，引続きReview論文を増やしていく。Reviewは，アジアオレオサイエンス会議等での優秀な発表をSpecial issueとしてまとめて刊行することも考慮する。剽窃チェックについてはCrossCheckシステムを活用し，本誌の品格維持／向上に努める。さらに，学会，セミナー等で，本誌を展示／広報する機会を増やす。目指すところは「国際情報発信強化」である。

会員誌「オレオサイエンス」を12号発行する。オレオサイエンス編集委員会は，総説40件からなる特集企画，解説，抄録，会務記事など有益情報の早期発信を推進するとともに，会員が参画する紙面の充実など，積極的に投稿したくなるよう，さらに魅力ある会誌づくりに努める。なお，デジタルアーカイブのweb公開／環境整備を継続する。

2.1.2 人材教育

第15回フレッシュマンセミナーは，5月に「油脂と脂質」，6月に「界面科学と界面活性剤」についてそれぞれ開催し，日本油化学会が編纂・出版した教本の普及に努める。アドバンスセミナーは企業中堅層のニーズに即した企画を立て，前年度と同様1月末を目標に「油脂と脂質」および「界面科学と界面活性剤」について開催し，人材育成を図る。若手の会については，前年同様「2014年若手の会サマースクール」を7月に開催し，若手研究者・技術者の活発な交流をはかる。

上記のアドバンスセミナー等の本部事業は年4回の企画・部会統括委員会の開催により企画，運営を行う。また，次項以降の各支部，専門部会は，それぞれのリーダーの指導の下，独自に運営を行うが，企画・部会統括委員長が年2回開催する全体会議でスケジュール調整，相互の情報交換などを行う。

2.1.3 研究の奨励・業績の表彰

油脂・脂質，界面活性剤及び関連分野の科学・技術の進歩を奨励すると共に，著しい成果をあげた研究者を表彰する。若手の研究者を奨励するため，日本油化学会進歩賞，ヤングフェロー賞，学生奨励賞を授与する。また研究成果を表彰するため，日本油化学会学会賞，工業技術賞，エディター賞，オレオサイエンス賞，ベストオーサー賞を授与する。また本会に貢献した会員の表彰も行う。

2.2 評価・試験法の標準化と普及を行う事業（公2）

油脂および油脂製品の研究や品質管理等における油脂の品質を評価するための基準となる分析試験法として『基準油脂分析試験法2013年版』を刊行したが，今年度は新規の試験法を策定すると共に，従来の試験法の見直

し作業を実施する。また、英文版基準油脂分析試験法についても、必要な見直しと増補のための作業を進める。さらに、学生や研究者、工場技術者向けの界面活性剤の基準書として利用できる『界面活性剤評価・試験法』の改訂版の刊行に向けた作業を実施する。品質管理や研究開発を担う技術系職員および学生の一般知識の向上と評価・試験技能の向上を目的として、11月に第12回界面活性剤評価・試験法セミナーおよび12月に第14回基準油脂分析試験法セミナーを開催し、日本油化学会が制定した試験法の標準化と普及を図る。

2.3 地域における学術の振興と普及を行う事業（公3）

各支部による講演会・セミナー等は、例年に倣い開催する。また支部活動の一環である（一財）油脂工業会館共催の地区講演会・セミナーを、関西支部は7月に東広島市、10月に那覇市で、関東支部は10月に札幌市で、東海支部は11月に岐阜市で、それぞれ開催する予定である。油化学の視点から市民を対象とした啓発活動を積極的に行い、地域における学術振興・普及に努める。

2.4 学術専門分野の活性化事業（公4）

専門部会活動については、オレオマテリアル部会、界面科学部会、洗浄・洗剤部会、オレオライフサイエンス部会、油脂産業技術部会、オレオナノサイエンス部会、食品油脂機能構造部会およびマスターズクラブの7部会・1クラブ体制で展開する。日本油化学会活動の基盤は専門部会活動が担うとの共通認識のもと、常に独自性、さらにグローバル視点も意識しながら学術専門分野の活性化・強化に努める。各専門部会は部会長の指導のもと、専門性の追及と研究者の交流に重点をおき、専門部会主催シンポジウム・セミナー・講習会等の充実と定着化を図る。マスターズクラブは学際的な視点・分野横断的な視点も加えた活動を展開する。

以上

（第393回 理事会決議）